

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 児童デイサービスあさひ丸宮原土呂

保護者数(児童数)27人

回収数23枚

割合85%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	22	0	0	1		
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	15	2	0	6	実際の配置数・専門性を知らない	今後は定期的に職員に配置数や専門性が周知出来る方法を考えていきたいと思います。
	③ 障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化が適切になされているか	22	0	0	1		
適切な 支援の 提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	23	0	0	0		
	⑤ 活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	21	1	0	1		
	⑥ 放課後児童クラブや児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	6	2	11	交流されているかもしれませんが、利用した中では伺っていません	公園等外出しに行きますがなかなか児童クラブや児童館等の交流する機会が無かったので今後検討していきたいと思います。
保護者 への 説明等	⑦ 利用者負担等の説明や支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	23	0	0	0		
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22	1	0	0		
	⑨ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	4	0	0		
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	4	8	5	保護者会等の開催は無いので開催してもいいと思う	今後は運動会以外にも保護者会等を開催して保護者同士の連携が支援出来るようにしていきたいと思います。
	⑪ 子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19	2	0	2		
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22	1	0	0		

	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	22	1	0	0		
	⑭	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	20	0	0	3		
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	19	2	0	2		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	20	1	0	2		
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	19	3	0	1	・行き渋りはありますが楽しんでいっているように思います。	楽しく通ってもらえるように活動内容や過ごし方を考えていきたいと思えます。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	22	1	0	0		

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 8年 3月 31日

事業所名 児童デイサービスあさひ丸宮原土呂

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2	0		
	②	職員の配置数は適切である	2	4	2		職員の体調不良等での職員配置数の不安があるので今後も職員の募集を強化して行きたいと思えます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	0		
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	5	3	0		広く職員が意見出来るような環境づくりに努めていきたいと思えます。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2	0	昨年度の保護者や職員の意見を基に運動会を実施することが出来ました。	
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	6	1	1		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	4		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	4	0		
適切な 支援の	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	0		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	0		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	4	1		事業所内会議で話し合っています。
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	7	0	1		事業所内会議で話し合っています。活動が固定化しないように曜日が重複して利用している児童への工夫が今後必要と感じます。
	⑬	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	7	1	0		

提供	⑭	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	0		
	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われるた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	0		
	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	0		
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0		
関係機関や保護者との連携	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	6	2	0		
	⑲	母子保健やこども・子育て支援等の関係者や学校、関係機関と連携した支援を行っている	4	3	1		
	⑳	就学前に利用していた保育所、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4	4	0		
	㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	0	7	1		まだ移行する子がないので分からないため実例がない所です。
	㉒	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	1	去年研修セミナー参加	定期的でなくとも年2～3回あると職員の支援の質の向上につながるので行えるようにしていきたいと思います。
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	3	4		
	㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	4		
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	0		
	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	4		
	㉗	運営規定、利用者負担等の説明や、支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	8	0	0		

保護者への説明責任等	⑳	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	1		
	㉑	父母の会の活動をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	6		
	㉒	子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3	0		
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の除法を子どもや保護者に発信している	7	0	1		
	㉔	個人情報の取り扱いに十分注意している	6	2	0		実績表に別の利用者の押印をしない事や利用料等の間違いが無いように取り扱いには十分注意していきます。
	㉕	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	2	0		
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	5		
非常時等の対応	㉗	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練が実施している	4	3	1		入職したばかりでマニュアルを理解出来ていない部分は管理者に確認するようにしていきます。
	㉘	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行っている	7	1	0		非常時に生死に分ける事なので子ども達が真剣に取り組めるよう声掛けを行っていきます。 視覚優位聴覚優位の子に合わせて掲示物の提示が有効だと考えています。
	㉙	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	1	0		
	㉚	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	5	0		食物アレルギーのある子どもについて一覧の更新を定期的に行っていくようにします。
	㉛	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	3	0		
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	0		
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	0		

事業所自己評価のまとめ

事業所名 児童デイサービスあさひ丸宮原土呂

職員による自己評価と保護者に評価の共通点

子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画を作成している
父母の会の活動をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している
放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもとの活動する機会があるか
定期的に会報やHP等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている

相違点

改善点と改善への取り組みを話し合った結果

- ・公園等外出先での障害のない子どもとの交流はあるが、児童館や児童クラブに行つての交流の機会が無かつたので、今後は検討していく。また、子どもによつて他の子どもとの交流が難しい場面があるので職員が介入して交流する機会を作つていく等検討していきたいと思ひます。
- ・非常時の訓練が行われているが保護者からの回答で『わからない』が多く、どのように周知して行けばいいか職員で話し合つていこうと思ひます。
- ・保護者同士の交流の場は新都心と合同運動会を行つたが保護者同士で交流する事が難しく、連携の支援に繋がらなかつた可能性があるので今後は保護者会を開催していけるように内容を考へて行きたいと思ひます。
- ・去年より意見が少なかつたので、意見がもらえるように努力をしていく必要がある。